資料1

第三次町田市環境マスタープラン策定の進め方

1. 策定の主旨

1.1 町田市環境マスタープランについて

町田市は、良好な環境を保全、回復及び創造するとともに、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な循環型社会の実現を目指して、2000 年に環境基本条例を制定しており、「町田市環境マスタープラン」は、当該条例の第 9 条に基づき策定しています。

表 1　町田市環境マスタープランが定める事項（町田市環境基本条例より）

・市の責務として、環境施策を総合的かつ計画的に推進するための環境基本計画を策定すること（第 9 条）
・環境への負荷の低減に寄与する行動を取るための規範となる環境行動指針を策定すること（第 11 条）

1.2 第三次町田市環境マスタープラン策定にあたって

現行の「第二次町田市環境マスタープラン」（2012 年 4 月策定）（以下、「現行計画」という。）は 2021 年度で計画期間が満了を迎えること、また現行計画の期間内においても「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択や「第五次環境基本計画」の閣議決定等の国内外における環境を取り巻く大きな情勢の変化が起こっている状況です。

「第三次町田市環境マスタープラン」（以下、「次期計画」という。）は、現行計画の取組の成果や課題、環境に係る状況の変化や市民の意向等を踏まえるとともに、市の上位計画・関連計画との整合を図り、国内外の環境をとりまく情勢の変化などに対応し、新たな町田市の環境政策を推進するための計画とする必要があります。

表 2　現行計画策定以降の主な背景の変化

年	主な背景の変化	概要	主体
2015	「持続可能な開発目標（SDGs）」の採択	国連が採択した国際社会全体の 2030 年に向けた環境・経済・社会についての目標	国外
2016	「パリ協定」の発効	温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組み	国外
2018	「第五次環境基本計画」の閣議決定	国際的潮流を踏まえた、政府の環境の保全に関する総合的かつ長期的な施策の大綱	国内
2018	「第 5 次エネルギー基本計画」の閣議決定	エネルギーを巡る国内外の情勢変化を踏まえ、2030 年、更に 2050 年を見据えた新たなエネルギー政策の方向性を示したもの	国内
2019	「ゼロエミッション東京戦略」の策定	世界の大都市の責務として、2050 年に CO2 排出実質ゼロに貢献するためのビジョンと具体的な取組	都
2022	「（仮称）まちだ未来づくりビジョン 2040」の策定予定	新たな社会状況の変化を踏まえた目指すべき未来（将来像）や基本目標、経営方針などを示した市の最上位計画	市

2. 計画の位置づけ

「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」をはじめとした、環境に関連するさまざまな計画や条例との整合を図りながら取組を推進していきます。次期計画に包含する、「地球温暖化対策実行計画（区域施策編)」、「生きもの共生プラン」は、それぞれアクションプランとして位置づけます。

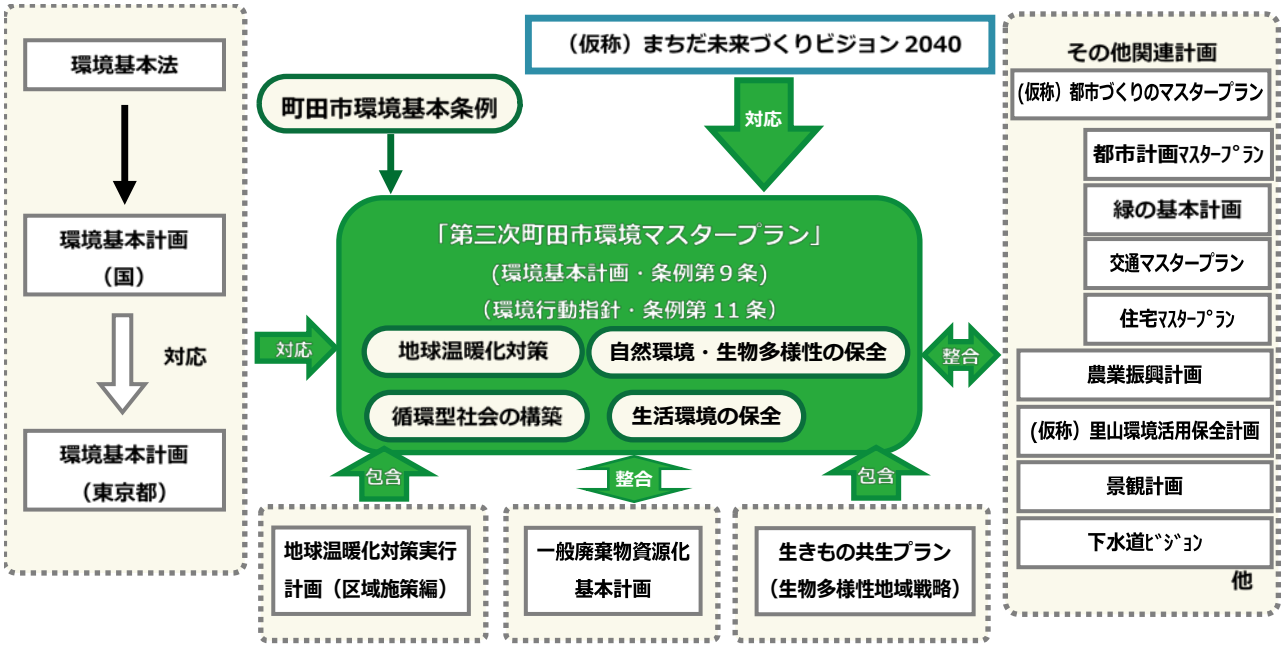

図 1　次期計画の位置づけ

3. 計画期間

次期計画の期間は、2022 年度から 2031 年度末までの 10 年間とします。

なお、環境や社会状況の変化に応じて、計画期間の途中で必要な見直しを実施します。

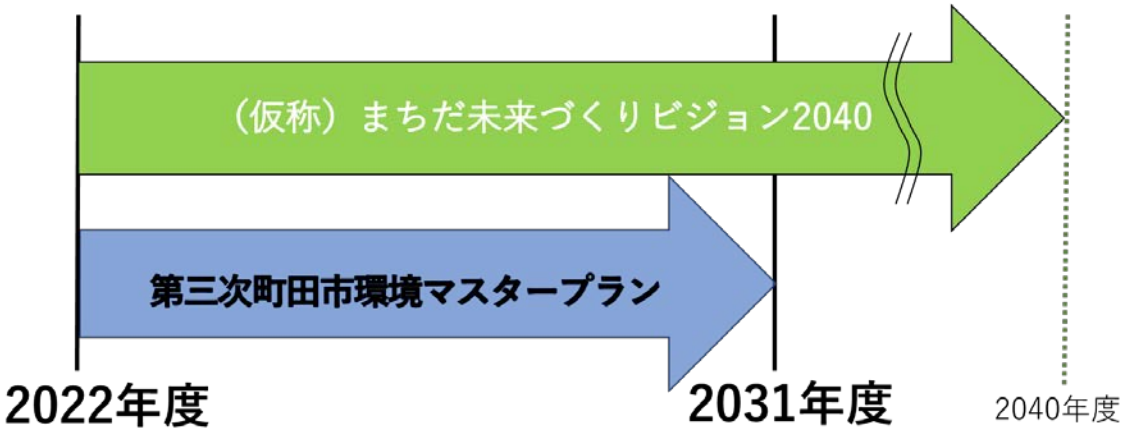

図 2　次期計画の計画期間

4. 策定の考え方

4.1 基本的な考え方

●市の特性を考慮した町田らしい計画

東京多摩地域の主要な商業都市でありながら、多くの大学が所在する学園都市や都心のベッドタウン、公共交通の結節点、北部丘陵を中心とする里山環境を有する点、境川や鶴見川の源流部が位置するなど、多面的な環境特性を有する町田市ならではの計画とします。

●環境政策の一体的な推進を図るための計画

次期計画に「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」【新規】、「町田生きもの共生プラン（生物多様性地域戦略）」【既存】を包含し、それぞれの環境分野のアクションプランとして位置づけることで、計画の一体的な推進を図ります。

4.2 策定にあたってのポイント

次期計画の策定にあたっては、以下のポイントを重視します。

■次期計画の内容に関するポイント

①特に解決を図るべき重要な環境課題への対応

・町田市が特に解決を図るべき重要な環境課題を明確化した上で、効果的・優先的な対策を立案します。

②SDGs の達成をも見据えた地域貢献型の計画づくり

・環境政策における SDGs への貢献を整理するとともに、まちづくり・交通、産業・観光、健康・福祉等の広範な経済・社会分野への貢献の可能性を検討し、町田市が地域として抱える課題に対して統合的な向上を図ることができる施策の体系化及び具体化を図ります。

■次期計画の構成や運用面に関するポイント

①市民にとってわかりやすい計画づくり

・市民が「自分事」として、次期計画を共有するため、目指すべき環境像の図示や市が重点的に取り組む目標や施策を明確化します。

・市民による理解を促すため、平易な表現や計画内容をイラストで表現するなど、読みやすさやわかりやすさへの配慮を行います。

②実効性のある進捗管理手法の構築

・これまでの指標の運用実績を検証し、より適切な指標群へと改善します。

・計画の進捗管理手法を明確にし、計画の評価、取組の改善が効果的に機能する仕組みを設けます。

5. 策定体制

5.1 策定体制

次期計画の策定にあたっては、学識経験者、市民、事業者で構成される環境審議会や庁内での各種委員会等において、協議を行いながら計画策定を進めます。

また、市民の意向・意見等を反映させるため、パブリックコメントのほか、市民アンケートやタウンミーティング、学生を対象としたアンケートやワークショップ等の多様な手法を活用した意見収集を実施します。

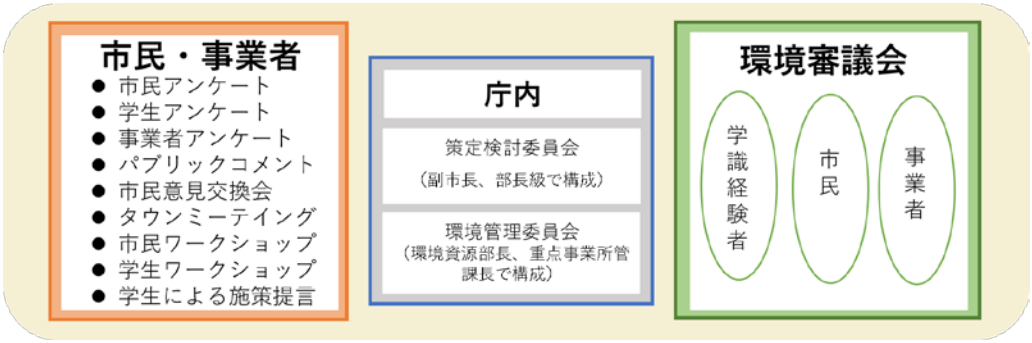

図 3　策定体制

5.2 策定の流れ

次期計画策定に向けた流れを以下に整理します。

はじめに、町田市の環境を取り巻く国内外の最新情勢、町田市の地域特性、現行計画における目標達成状況の分析・評価、市民・事業者のニーズの把握を行い、現況の整理を行います。

現況整理結果を踏まえ、主要な課題の抽出・整理を行った上で、次期計画の基本的方向性（環境像、基本目標）の検討を行い、施策の体系を含む骨子を策定します。

骨子に基づき、目標・指標の設定、施策・事業の立案、進行管理方法の検討を行い、素案を策定し、パブリックコメント等を経たうえで、最終的な計画として策定します。

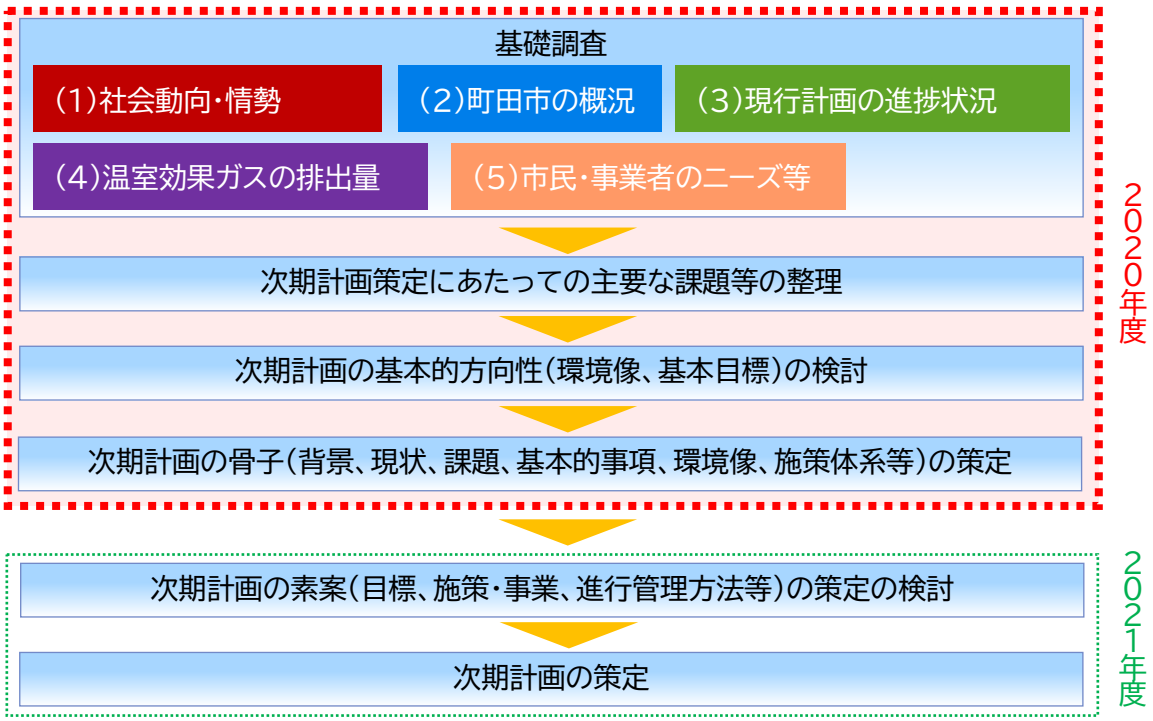

図 4　次期計画策定の流れ

5.3 市民や事業者等との意見交換の実施状況

表 3　市民・事業者等との意見交換の実施状況

時期	イベント等	概要
2019 年 10～12 月	市民ワークショップ（全 6 回）	無作為抽出型市民ワークショップ「まちだの未来を考えよう」を行った。
2020 年 4 月～5 月	市民アンケート	市民 3,000 人を対象に行った。
2020 年 6 月～8 月	学生アンケート	桜美林大学、和光大学で Web アンケートを実施し、約 250 名から回答を得た。
2020 年 6 月～12 月	学生による施策提言	桜美林大学の藤倉ゼミによる町田市の環境施策の研究及び施策提言
2020 年 7 月	学生ワークショップ（全 2 回）	桜美林大学で地球温暖化対策（75 名）と町田市の環境問題（84 名）をテーマにワークショップをオンラインで実施
2020 年 8 月	タウンミーティング	オンラインタウンミーティング「まちだの未来のために『できること』を一緒に考えよう」を実施し、地球温暖化対策と生物多様性について意見交換を行った。
2020 年 8 月～9 月	事業者アンケート	事業者 500 社を対象に行った。

6. 策定スケジュール

時期 年度	月	環境審議会	市民・事業者向けの意見交換等	庁内検討	策定作業
2020	4		市民アンケート	★検討委員会（4/10）	・現行計画課題整理 ・方向性整理
	5				
	6		学生アンケート		
	7		学生ワークショップ（2回）	★環境管理委員会（7/27）	
	8	★0回【委嘱、前年度進捗報告、評価確認】（8/19）	タウンミーティング 事業者アンケート		
	9		学生による施策提言		骨子策定
	10			★経営会議（10/15） ★検討委員会（10/16）	
	11	★1回【環境像、基本目標】（11/17）		★環境管理委員会（11/18）	
	12				
	1	★2回【諮問、骨子案】（1/19）			
	2	★3回【骨子承認】		★検討委員会	
	3				
2021	4			★環境管理委員会 ★検討委員会	素案策定
	5	★1回【素案】	市民意見交換会		
	6	★0回【前年度評価】			
	7			★検討委員会 ★環境管理委員会	
	8	★2回【素案承認】		★経営会議	
	9				
	10	パブリックコメント	エコフェスタ		
	11				計画策定
	12	★3回【パブコメ結果】		★検討委員会	
	1	★4回【パブコメ後修正案、答申案承認】			
	2				
	3				

※各種会議、市民・事業者向けの意見交換会等のイベントの時期や内容等は、変更する可能性があります。